

公共交通の利用をそっと後押し！ 「ナッジ」を活用した効果的な利用促進策の検討

キーワード

- ・地域公共交通活性化
- ・態度・行動変容分析
- ・心理実験
- ・ナッジ

三宅貴大 / 中国運輸局交通企画課 藤原章正・カ石真 / 広島大学 神田佑亮 / 呉工業高等専門学校 鈴木春菜 / 山口大学
森山昌幸・宮地岳志・福井のり子・岡田あかね・武田侑子・佐藤亜美 / 株式会社バイタルリード

背景と目的

- 和訳で「そっと後押しする」という意味を持つ「ナッジ(nudge)」の活用が様々な政策分野で進みつつある。
- ナッジはモビリティ・マネジメントとの親和性が高い一方で、基礎理論や具体的な手法の整理はこれまで十分に行われていない。
- コロナ禍において公共交通利用者は大幅に減少している。
- 従来から取り組まれてきたモビリティ・マネジメントの手法とナッジとを整理し、コロナ禍に対応したより効果的な公共交通利用促進策を検討する。

1 ナッジとモビリティ・マネジメントの関係性

ナッジとは？

- 人々が短期的・瞬間的な選択を求められた際、普段経験していないために、または知識が不十分であるがために、“なんとなく”不合理な行動が選択されてしまっていることに対して環境を改善することでより良い選択を促す手法。

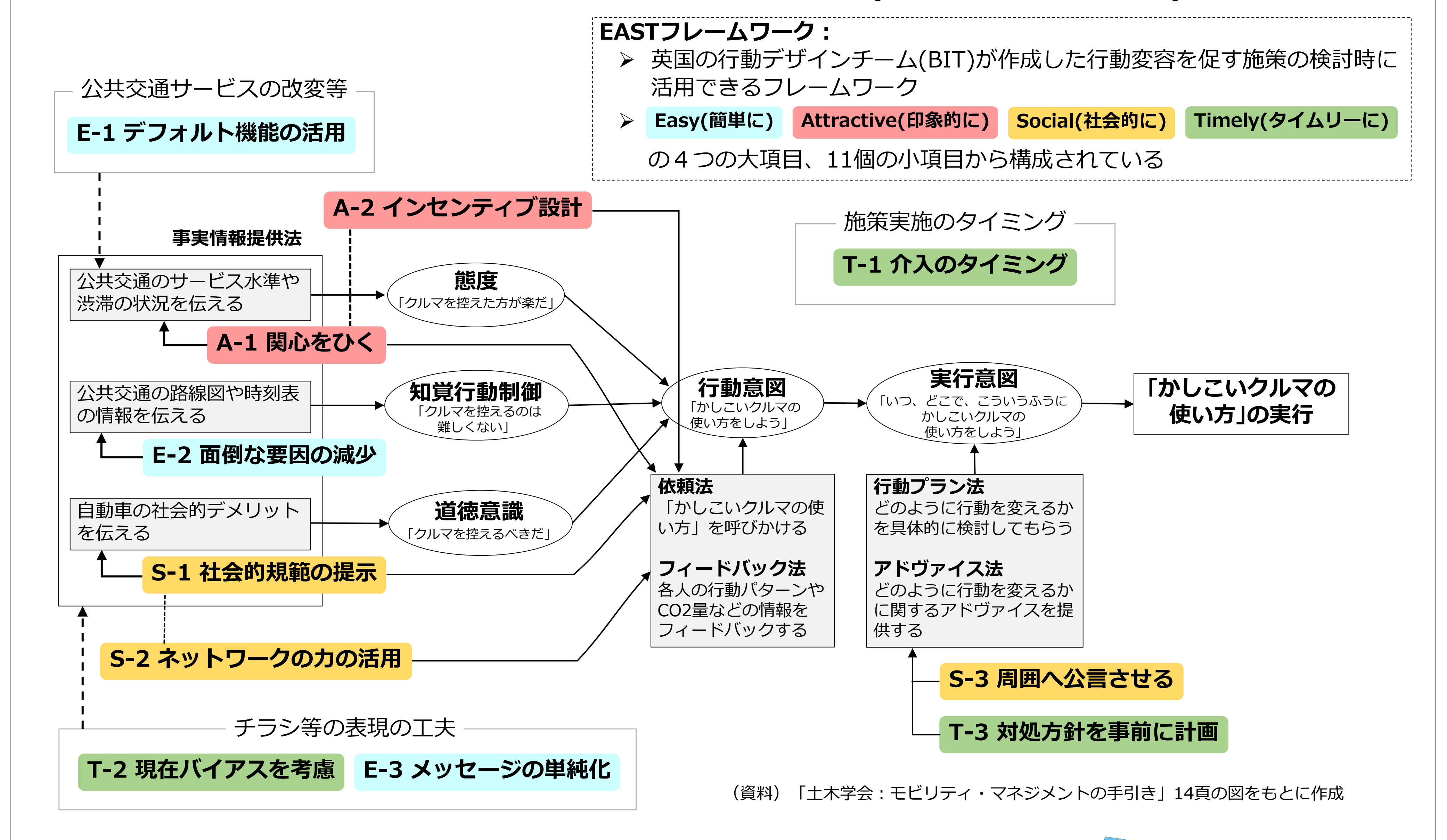
モビリティ・マネジメントとの違いは？

- 「行動を促す」という点ではモビリティ・マネジメントもナッジも同じ。
- モビリティ・マネジメントは、心理的方略と構造的方略に大きく分けられるが、その内、心理的方略の一部がナッジに含まれる。

★本取組のポイント

従来のモビリティ・マネジメントの施策をナッジのフレームワークで整理することにより、より効果的な公共交通利用促進策を検討。

モビリティ・マネジメントの基礎技術とナッジ理論(EASTフレームワーク)の関係図



2 ナッジを活用した効果的な公共交通利用促進策の検討

簡単で、すぐに来て、
金銭的な負担が大きい取組事例を
パンフレットにとりまとめ

地域別・目的別で探せる「おでかけガイド」

- 地域別に、通院や買い物に適した便を抜粋して掲載
- 「利用できる便、時刻や乗り継ぎの有無を調べる」という面倒な作業を軽減

E-2 面倒な要因の減少

実施主体：広島県北広島町(左)、山口県美祢市(右)

地元の高校生と協働でPR

- 地元の高校と協働で、コミュニティバスの車両の飾り付けやPR動画制作を実施
- 地元の高校生が関わることで利用者や地域の関心を引く

A-1 関心をひく **S-2 ネットワークの力の活用**

実施主体：岡山県玉野市、両備ホールディングス株式会社

パンフレットは
中国運輸局HPから



参加表明が必要なノーマイカーウィーク

- 参加する事業所が市へ事前に参加表明することにより、行動可能性を高める
- 事業所という既存のコミュニティを対象とすることで、内部で相互作用や互惠作用を生む
- 表彰制度が、地域に認知してもらえるというインセンティブに

A-2 インセンティブ設計

S-2 ネットワークの力の活用

S-3 周囲へ公言させる

実施主体：島根県松江市

生活環境が変化するタイミングで情報提供

- 中学3年生を対象に、高校通学に使える時刻表、通学用の公共交通マップを配布
- 高校進学前のタイミングに情報提供し、通学に適した時刻のみに掲載することで、調べる手間を軽減する

E-2 面倒な要因の減少

T-1 介入のタイミング

実施主体：岡山県瀬戸内市

公共交通に合わせてイベントを開催

- 公民館で開催される介護予防教室の開催時間を、コミュニティバスの運行時刻に合わせて少しずらすことにより、おのずと公共交通を選びやすくする

E-1 デフォルト機能の活用

実施主体：山口県下松市

今後の活用に向けて

- ナッジを活用して日々の取組に一工夫加えることにより、低コストでより効果的な利用促進を実施できる可能性がある。
- 自治体による取組では、モビリティ・マネジメントの施策を参考にするとともに、交通以外で実施されているナッジ施策も参考にして、より進化した利用促進策を展開することが不可欠である。
- 具体的な施策にナッジを取り入れ、実験的な比較からより効果的な手法を検討することが求められる。
- 公共交通利用促進策でのナッジ活用について、今後様々な自治体や交通事業者が取り組み、各施策の効果・検証ができれば、他地域での展開が容易になるように事例のデータベース化を行うことが重要である。